

でも仕方がない。何かの方法に依つて諦めるより他に仕方がない。

自分は生來餘り思ひ切りの良い方ではないので、こんな場合には何時も長い事惱まされる。今度もそうだった。(終り。)

彗星界の近況

過去三四年間、毎年可なり賑はしかつた彗星界も、さうした故か、今年には、今までの状況から見ると非常に淋しい。本年に入つて発見された新彗星はシブスマンワクマン兩氏の1929aといふ彗星ばかり。(「天界」第96號第205頁)。之れも春以來は見えなくなつた。「年鑑」等の豫告によると、今年にはダニエル、ペライン、メトカフ等の彗星が歸來する筈であつて、其中でも最も興味深く期待されてゐるペライン彗星の近日點通過は七月末であるのに、未だ何の発見も報ぜられない。まさかクリブス氏の計算に誤りがあるとも思はれないが。

去る四月末にロンドンで開かれた大英天文協會(B. A. A.)の例會に於いて、クロンメリン老の言ふ所に據ると、近頃クリブス氏は第一ジャコビニ彗星(1896年第五彗星)の軌道や攝動を新しく計算し、之れが本年九月に近日點へ歸來するところを知つたといふ。氏の計算結果は

	1896年の軌道	今1925年の軌道
近日點通過の日	1896年十月28日0313	1929年九月24日75
近日點の引數	140° 31' 45"	142° 25' 41"
昇度點の黃經	193 25 34	192 34 15
軌道面の傾斜	11 21 43	11 52 47
離心角	36 2 57	73 3 6
公轉週期	6年64628	6年43405

之れによると、八九月頃は「へびつかひ座」から「へび座」を通りぬけて「わし座」あたりにある筈であつて、觀測には誠に好位置である。地球に最も近いのは八月末らしい。誰か之れを発見する人は?

尙ほ、クリブス氏の最近の計算によれば、本年出現の筈であつたダニエル彗星(1907第四)は來年四月に近日點を通過するところになつたといふ。

(八月五日山本)